

『世界の北海道へ MM の進化は続く』

【特定非営利活動法人ほっかいどう学推進フォーラム 理事長 新保元康】

ご縁をいただき、本年8月、「特定非営利活動法人ほっかいどう学推進フォーラム」を立ち上げました。3月までの37年間の小学校教員としてのお役目を終え、学校そして幅広い専門家の皆様とのコラボレーションによる地域学習の新たな展開を考える日々です。

私とMMの出会いは、1999年(平成11年)。谷口綾子さん(当時一般社団法人北海道開発技術センター、現筑波大教授)が、私の学級でおそらくは日本で初めてのMMの授業を行ったのです。

供給者サイドからの交通政策だけで無く、需要者側の意識に着目するMMの重要性は一教員の私にもすぐに分かりました。

あれから20年。全国での地道なMMの取組によって、国民の交通利用者としての意識は着実に変わって来ているように思います。自動車が光り輝いていた時代の空気が、いつのまにか変わってしまったのではないのでしょうか。エコや健康を意識した交通利用が着実に進んでいるように感じます。

北海道にとってのMMは、さらに新しい局面への進化を求められているのかもしれない。

- ・北海道の人口の2/5を集める大都会札幌でのMM
- ・都府県の平均面積13倍以上の広大な北海道におけるMM
- ・鉄道の維持困難線区やバスの運転手不足等の問題を抱える北海道のMM
- ・全国に先がけて高齢化の進む北海道のMM
- ・「世界の北海道」として注目され、外国人で賑わう北海道のMM

北海道にとって、交通需要者の意識をどう捉え、どう導くかは、北海道の未来に係わる重要な問題なのです。ここを見誤ると、税金をいくら投入しても安全で安心な移動の確保は難しくなります。そして、北海道の魅力は生活者にとっても旅行者にとっても陰りを帯びていくことでしょう。

北海道におけるMMは、最も困難な課題に立ち向かうものなのかもしれません。しかし、視点を変えると、それは、世界に最も貢献するMMなのだと思います。

札幌市の「小学校における札幌らしい交通環境学習推進事業」は、既に9年目の取組を継続中。さらに今年度からは、北海道開発局札幌開発建設部による「みち学習検討会」もスタートしました。

ほっかいどう学という視点から、私もこれらの取組に引き続き積極的に参画して参ります。